

シンフォギア キエル  
未来

時雨の思い

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

■■■■? ■■■?? : : エラーこの事件に関する情報が読み取れません : : :  
システムシャットダウン

・  
・  
・  
・

プツンッ

どうやらアノ事件に関する情報が消されてるか嚴重にブロックされてるな、仕方ない  
直接見に行くか。

【シンフォギア因果律編シリーズ2】

# 目次

希望のオワリ、絶望のハジマリ | 1



響「……………」

ダラリツと響の頬に当てられた右手が力無く落ちる、響の頬は血で汚れて赤くなっていた。

未来「……………」

響「……………ミク……………」

ビシャツ！

響は右手を未来の体から抜き、両手で優しく抱え地面に寝かせる。

響「ワタ……………シハ……………」

真っ赤に染まった自分の手を見る。

響「未来を……………コロシタ……………」

ドツクンツと鼓動がギアペンダントから鳴る、そして黒く濁り輝きだした。

響「胸が熱い……………！、何……………コレ？ウグツ！ハア……………ハア……………」

呼吸が速くなる、『怖い』その一つの感情が今の響を支配していた。

響「ハア……………ハア……………ハア……………ハア……………力が抑えられない……………！」

そして、黒く染まりきったペンダントから黒い何かが響の全身を包んだ。

響「これは、暴s……………」

黒い何かに包まれた響はそのまま意識を落とした、暗い暗い闇の底に。

響を包んだ黒い何かは増殖を続け、約5階建ての家の大きさまで膨らみ、その形は黒い禍々しい色をした卵だった。

ミシツミシツパキツ

そして卵にヒビが生まれ砕け散り、中から魔神が生まれた。

?「……………」

背中に四枚の翼を持ち滑らかなラインの尻尾を二本生やし、頭には四本の鋭い角、目は白い所が黒に黒い所が紫に色を変えていた、体は刺々しく成った鎧らしき物を身につけ赤いラインが全身に走っていた。

?「……………ニヤア」

禍々しい姿に生まれ変わった立花響は、三日月の様な笑みをした。

響「アハ……………アハハハ!!」

響の壊れた笑い声が街に響いた。

???????

「絶望が始まる、白から黒へ、善から悪へ、その壊れた心はもう直せない、この世界はアノ子《立花響》に残酷過ぎた」